

市民参加の地域活動における市民の意向 —外濠市民塾の活動を対象に—

田中 咲¹・福井 恒明²

¹学生会員 法政大学大学院修士課程 デザイン工学研究科 都市環境デザイン工学専攻
(〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1, E-mail:saki.tanaka.9j@stu.hosei.ac.jp)

²正会員 博士(工) 法政大学教授 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科
(〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1, E-mail:fukui@hosei.ac.jp)

都市計画・まちづくり分野では市民参加が様々な形で実践されてきた。しかし地域全体で見ればその参加者は限定的であることが多く、より広く市民が主体の地域での豊かな生活の実現のためには、活動内容だけでなく参加する市民の意向に着目し議論する必要がある。本研究では史跡江戸城外堀跡とその周辺地域を対象とする外濠市民塾の活動を対象に、参加者の意向を把握するためアンケート調査を実施した。その結果、参加者の参加経歴を分類し、参加の継続要因と継続阻害要因を把握した。

キーワード: 市民参加, 地域活動, 外濠市民塾, 市民の意向

1. 序論

(1) 研究背景・既往研究

近年、地方分権の進展により、自治体マネジメントとして市民との「対話」「協働」への取り組みが展開したり、国民的な社会課題についても社会的合意形成が求められることから、様々な分野で「参加」が実践されている¹⁾。都市計画・まちづくりの分野における参加の発端は1960年代の開発に対する異議申し立て運動であり、時代の要請によって参加の在り方も変化してきた。そのような市民参加による取り組みは、まちづくりの先進事例、成功事例として取り上げられ、他の地域も追随しようと注目されることが多い。

しかし、人々の暮らし方が変化し多様である現代社会では、自身が生活する地域に対して無関心であっても特に支障なく暮らせる現状があり、地域全体で見ればまちづくりや地域活動の参加者は多くの場合限定的である。

今後の人口減少社会においては市民がまちで暮らしているという意識をもち主体的に地域に関わり続けることが必要であるが、それにはどのような要因によって市民のモチベーションは満たされ、維持されているのかに着目し議論する必要がある。

都市計画やまちづくり分野の市民参加に関する研究は数多く、都市計画マスタープランの策定プロセスにおける市民参加に関する研究²⁾をはじめとして、参加手法や参加形態など、主には参加が実践されている活動の事例とその実態について注目されている。参加する市民側に

着目し意識調査を行った研究もあるが^{3) 4)}、それらは行われた事業の評価やイベントの開催効果を測るためであり、なぜ市民がそのような活動に参加し、さらに参加することによって何を得ているのかについては十分な議論がなされていない。

(2) 研究の目的と方法

本研究では、市民参加の地域活動に着目し、どのような要因が市民のモチベーションを満たし、その維持につながっているのか、あるいは参加の継続を阻害しているのかを明らかにすることを目的とし、市民の地域活動に対する関わり方の方向性の示唆を得ることを目指す。

以上の目的を達するための方法として、地域活動の参加者に対してアンケート調査を実施する。

対象は都心の貴重な水辺である江戸城外濠を望ましい姿に変えていくことを目的に活動している外濠市民塾とする。

2. 研究対象

(1) 江戸城外濠の概要

江戸城外濠(以下、外濠)は、1636(寛永13)年に江戸城防備の重要な役割を担う構造物として築かれた江戸城の惣構の一部であり⁵⁾、内濠や東京湾、神田川、玉川上水と一体となって城下町江戸の貴重な水路・水空間・舟運路としての基盤であった。明治維新後、都心を通過する主要な鉄道用地として利用されるなど、近代都市計

画事業の整備の過程でその多くは失われていき⁶⁾、延長約14kmあった長大な濠も、現在水面を残しているのは、弁慶濠、市谷濠、新見附濠、牛込濠の約4kmの区間のみである⁷⁾。明治以後、水辺は現在よりも活かされ舟運やボート遊びで賑わっていた。しかし、戦後の高度成長期を経て、残った水面についても下水流入や悪臭が問題となっており、現在は水辺に近づくことすらままならない。

外濠は1956（昭和31）年に史跡江戸城外堀跡として国史跡に指定され、2008（平成20）年には千代田区・港区・新宿区が共同で「史跡江戸城外堀跡保存管理計画報告書」を策定している。しかし、3区の外濠の周辺環境を含めた保存・活用について記載はあるものの、具体的な議論には至っておらず、都心の豊かな水辺を利活用することについても触れられてはいない。



図-1 江戸城外堀跡周辺図⁸⁾

(2) 外濠市民塾の概要

外濠市民塾の発端は、法政大学エコ地域デザイン研究所（現エコ地域デザイン研究センター、以下エコ研）が2012年に書籍「外濠 江戸東京の水回廊」を刊行し、それをきっかけに大日本印刷株式会社が共同での地域活動をエコ研に働きかけたことにより⁹⁾、2013年に発足した。外濠を望ましい姿に変えていくため知識や将来像を共有しようと、主な活動としてセミナーやまちあるき、ワークショップなどの活動を年に1~2回開催してきた（2019年8月現在、第10回まで開催）。主な参加者は地域住民、在勤者、大学生、高校生である。大学と企業が共同して運営する外濠市民塾実行委員会が毎月定例会を開き、これらのイベント企画と開催に向けた準備を進めている。2019年3月には、外濠開削400周年となる2036年に向け、外濠の価値を取り戻し高めることを望む市民の意見を形にした外濠vision2036を作成し、外濠再生と外濠周辺の

まちの魅力づくりの実現に向けた方針を打ち出している¹⁰⁾。

3. アンケート調査

(1) 調査方法と内容

これまで外濠市民塾の活動に携わった参加者または運営者にアンケート調査を実施した。メールにてWebでのアンケート回答を依頼し、必要に応じて書面のアンケートを送付した。調査は2019年8月上旬から8月中旬の間で実施し、調査項目は①基本属性、②参加経歴、③参加の動機とその満足度、④事前に想定していなかった良い点・不満点、⑤今後の参加への意欲、⑥外濠市民塾以外の地域活動への参加の6点である。

①基本属性は性別、年齢、職業、居住地、外濠との関係で構成した。②参加経歴は2013年4月から2019年8月の間に外濠市民塾が開催した全16回の活動のどの回に参加したか、それに付随して参加者または運営者のどちらの立場で携わったかを選択式で尋ねた。また、外濠市民塾に最初に参加するきっかけとなった情報も尋ねた。③参加の動機と満足度については、まず、活動に参加した経緯として「自発的に参加した」「立場上参加せざるを得なかった」を選択式で尋ねた。その後「自発的に参加した」場合、参加動機（1.外濠・外濠周辺地域について知識を得るため、2.外濠・外濠周辺地域の環境改善に貢献するため、3.他の参加者との意見交換・交流のため、4.自分の意見を表明するため、5.単純に活動に興味があったため、6.その他の中から複数回答可）とその点についての満足度について、また、「立場上参加せざるを得なかった」場合、活動に参加した満足度について、それぞれ「満足」「どちらともいえない」「不満」の3段階で尋ねた。「どちらともいえない」「不満」を選択した場合、その理由を自由記述式で求めた。④事前に想定していなかった良い点・不満点については、参加する前には予想していなかったことがあれば自由記述式で求めた。⑤今後の参加への意欲は「ぜひ参加したい」「内容によっては参加したい」「まだわからない」「参加しない」の4段階で尋ね、どのような内容なら参加したいかを自由記述式で求めた。⑥外濠市民塾以外の地域活動については、参加していれば活動場所と活動内容を尋ねた。

(2) 調査結果

アンケート回収数は56となり、すべてを有効回答とした。

a) 基本属性

基本属性に関する調査結果を図-2~6に示す。

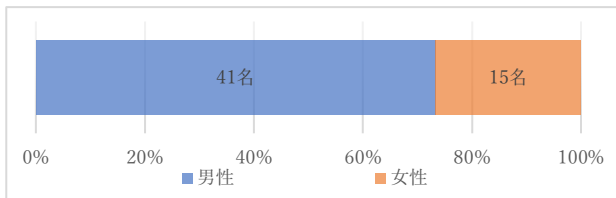


図-2 参加者の性別

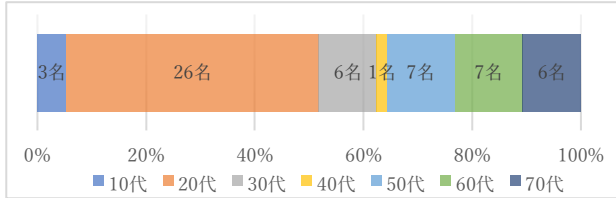


図-3 参加者の年齢

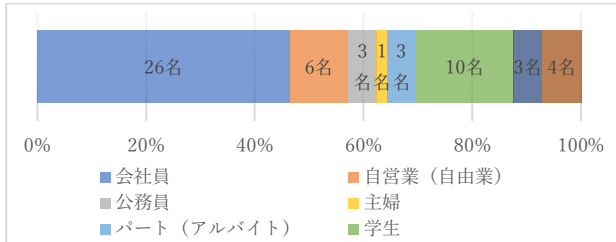


図-4 参加者の職業

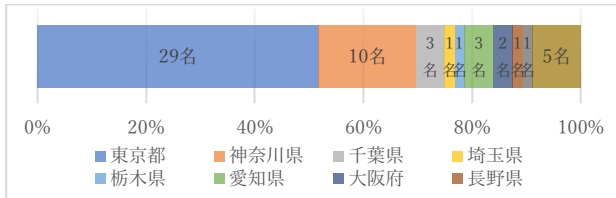


図-5 参加者の居住地

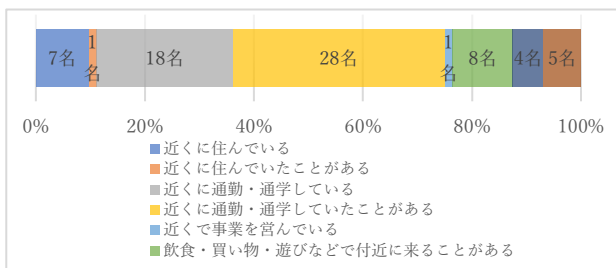


図-6 参加者の外濠との関係

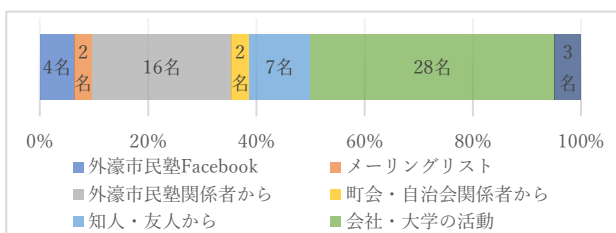


図-7 参加のきっかけとなった情報

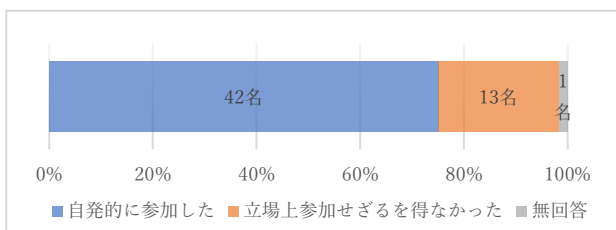


図-8 参加の経緯

b) 参加経歴

55名（無回答1名）の参加経歴を参加回数の多い順に、同一回数の場合その中でもより過去の回に参加している順に表-1に示す。また、外濠市民塾に参加するきっかけとなった情報を図-7に示す。

c) 参加の動機とその満足度

参加した経緯について、図-8に示す。「自発的に参加した」と答えた42名のうち、参加動機についての満足度において、いずれか一つでも「どちらともいえない」または「不満」を選択した者は12名であり、その理由については10記述を得た。また、「立場上参加せざるを得なかった」と答えた13名のうち、参加した満足度が「どちらともいえない」を選択した者は1名であり、その理由を得た。回答内容を分類し、主なものを抜粋して示す（表-2）。

d) 想定外の良点・不満点

37名から回答を得た。それぞれの回答内容を分類し表-3に示す。

e) 今後の参加への意欲

4段階で尋ねた参加意欲の回答結果は「ぜひ参加したい」20名（36%）、「内容によっては参加したい」29名（52%）、「まだわからない」7名（13%）、「参加しない」0名となった。どのような内容なら参加したいかという問いについては、41名から回答を得た。実践的、環境改善に関わる内容が22件、まちあるきや歴史などの知識を得られる内容が14件、参加者との交流や、情報発信をする内容が8件であった。

f) 外濠市民塾以外の地域活動への参加

27名から回答を得た。地元（回答者の住まいがある地域）で活動に参加している者が10名、地元以外で活動に参加している者が13名、地元と地元以外の両方で活動に参加している者が4名であった。

表-2 満足度に対するどちらともいえない・不満の理由

分類		どちらともいえない・不満の理由
自発的に参加した	外濠・外濠周辺地域の環境改善について	まだ確たる成果に至っていない (2) 水質改善に向けた取り組みの実効性 (29) 外濠自体を活用するに至っていない (37)
	外濠・外濠周辺地域の知識について	参加回数が少なかったため、単発的にしか関わらなかったから (35) 外濠の現状について、空間的、地理的、行政的、住民との関わりの方から説明してほしかった (47)
	他の参加者との意見交換について	主催者及び他の参加者と意見交換する時間が少なかった (48)
立場上参加せざるを得なかった	あまり興味をそられる内容でなかった。あまり意味を感じなかった (17)	

() 内は回答者番号

4. 分析・考察

(1) 参加経歴による分類

表-1 から参加経歴を分類分けすると参加者のタイプは以下のように大別できる、

- ①活動初期からの参加回数が10回以上の参加者
- ②継続的ではないものの参加回数が3回以上7回以下の参加者
- ③参加回数が2回以下の参加者

(2) 参加の継続度合いを規定する要因

活動初期からの参加回数が10回以上の参加者について表-3より、運営者は、当初は想定していなかった主体まで活動が広がり、継続がなされていることに好意的な意見であるが、それがまだ不十分であることには不満を示しており、どちらもモチベーション維持の要因となっていることが考えられる。参加者においては、参加するたびに新たな知識を得られることについて良い点と述べ、更なる知識の吸収に意欲を示しており、今後の参加も想定される。

継続的ではないものの参加回数が3回以上7回以下の参加者について表-3より、運営者は、10回以上参加している運営者同様、活動の広がりや主体性などに好意的な意見を持つ一方で、事務的な作業や役割を担うことに対して負担を感じている意見も見られ、継続の阻害要因になっていると考えられる。参加者は他の参加者との交流や知識を得られることに好意的な意見であるが、継続した参加をもたらすほどの要因は見られない。

参加回数が2回以下の参加者は、表-2より参加動機についての満足度でどちらともいえないと答えた参加者が多く見られる。当初期待していたことに対して活動内容が不十分であったり、一致していなかった点が参加の継続意欲が生じないことにつながっていると考えられる。

5. まとめ

市民参加の地域活動として外濠市民塾の活動を対象にアンケート調査を実施し、参加者の参加経歴を分類し、主に自由記述内容から参加の継続要因と継続阻害要因を把握した。

今後は、ヒアリング調査を実施し、参加者の活動タイプをより詳しく分析するとともに、個別のモチベーションに関わる要因についてより考察深めていく必要がある、

加えて、外濠市民塾以外の地域活動における市民の意向についても調査し、比較とともに参加の特徴を明らかにし考察する必要がある。

参考文献

- 1) 杉崎和久：『市民参加の到達点』の編集にあたって、都市計画, Vol. 59/No. 4, p. 4, 日本都市計画学会, 2010
- 2) 吉村輝彦, 原科幸彦：都市マスタープラン策定プロセスへの市民参加の現状分析—東京23区を事例として—, 日本都市計画学会学術研究論文集, 第29巻, pp. 13-18, 1994
- 3) 松田和香, 石田東生：都市計画マスタープラン策定過程におけるパブリックインボルブメント活動および情報提供が市民意識等に与える効果の分析, 日本都市計画学会学術研究論文集, 第35巻, pp. 871-876, 2000
- 4) 清水裕子, 中山徹：継続的な商店街活性化イベントのありかたに関する研究 あるくん奈良まちなかフェスティバルを事例として, 日本建築学会技術報告集, 第20巻, 第44号, pp. 285-290, 2014
- 5) 千代田区教育委員会編：史跡江戸城外堀跡保存管理計画書, p. 93, 千代田区・港区・新宿区, 2008
- 6) 前掲5)
- 7) 法政大学エコ地域デザイン研究所編：外濠 江戸東京の水回廊, p. 98, 鹿島出版会, 2012
- 8) 前掲5), p. 10
- 9) 吉田千春：外濠でつながる人たち, 東京人, 2019年1月号, p. 72, 都市出版株式会社, 2019
- 10) 外濠再生懇談会：外濠 vision2036, 2019